

⑤Gedhe Keraton Yogyakarta Mosque

人文社会科学部 2 年

クラトンの西側に位置している王家のモスク。



1755 年、マタラム王国が内紛とオランダ東インド会社の介入によって分裂し、ギヤンティ条約によってスラカルタ王国とジョグジャカルタ王国が成立した。その後、1773 年にジョグジャカルタ王国の初代君主ハメクブウォノ 1 世によってこのモスクが建設された。政治的な面だけでなく、宗教的な面でも王権があることを象徴している。ジョグジャカルタの成立とともに人口が増え、特に金曜礼拝の参加者は多く、主礼拝室だけでは十分でなくなった。そのため 1775 年に前庭を増築。1840 年には正門が建設され、モスクの格式と象

徴性が一層高められた。

礼拝の場としてだけでなく教育の場としても機能しており、コーランを読むための Iqra'や Juz Amma という書物も置いてある。このモスクは単独で世界遺産に登録されているわけではなく、クラトンから北に延びる宇宙観の直線軸の一部に位置している。王宮、アルンアルン広場、モスク、トゥグ塔が一直線上にあり、ジャワ文化における都市思想を表している。

構造

多層屋根であり、これはジャワの伝統建築様式。

内部には主礼拝堂という場所があり、線が織り込まれているカーペットが敷いてある。この線に沿って整列し、礼拝する。先頭にミフラーブというくぼみがあり、メッカの方向を指している。主礼拝堂の外側には、線の入った大理石の床の開けた空間があり、主礼拝堂に入り切らなかった人々がここで礼拝する。



服装

女性は、スカーフ(ヒジャブ)を被る必要がある。ノースリーブや短パンなどは避ける。男性は、帽子を外す必要があるが、songkok のようなイスラム帽は被っても良い。礼拝堂には靴を脱いで入る。観光客に対して、主礼拝堂に入る前にスカーフを貸し出している。



現在

モスクの運営や礼拝は今もクラトンの影響下にあり、王宮の宗教的な伝統は今も続いている。また、王国、アルンアルン広場、モスクはそのまま残され、この軸線は現在も意識されている。そのため、モスクの歴史的な役割は引き継がれていると言える。

まとめ

Gedhe Keraton Yogyakarta Mosque は、当時から現在まで続いて重要な役割を担っていることが分かる。また、服装によっても信仰心や敬意を表しているのだと思った。見学をするときには、実際にスカーフを身につけるなど敬意を示すことを心がけたい。